

奥日友好“桜祭り”

♪♪「さくらさくら」の歌の音響き

永富 啓子

1987年5月3日、やわらかく晴れた青空の下、ウィーンに隣接するブルゲンランド州の小さな町ドンネルスキルヒェンで“桜祭り”が行われた。春の訪れの遅かったこの年、その日、当地は桜が満開だった。この“桜祭り”を機に、奥日友好の一層の緊密化を願い、かわいい三つの町、ドンネルスキルヒェン、プアバッハ、ブライトンブルンを結ぶ33kmの街道に、日本の象徴でもある桜の木千本を植樹し桜並木を作ろうというイベント。まずこの日は、手始めに百本の苗木で3.3kmの桜並木ができあがった。おいしいワインの産地として名高いこの地方は、歴史的には、1683年トルコ軍との戦場であったこと、又、18世紀後半、ハンガリー大貴族エステルハージ侯寵愛の下に音楽家ハイドンが大活躍した場所としても有名だ。在ウィーン日本人の“桜祭り”参加希望者約八十名は日本人会を通して、主催するこの三つの町から“桜祭り”へ招待された。私もその一員として船遊覧、ワインコスト、食事、ハイドンコンサート等々、心暖かいもてなしを受けた。町の広場でのセレモニーは民族衣装の若者たちのダンスに始まり、当時の、シュテックス ブルゲンランド州副知事、レープ ドンネルスキルヒェン市長、矢田部駐奥日本大使、新村日本人会会長の挨拶の後、矢田部大使とシュテックス副知事の手で、日本から送られてきた桜の苗木が広場の中央に植樹された。



植樹する矢田部大使＝ドンネルスキルヒェンの広場で1987年5月3日

声楽家の私は、永年、日本人女声コーラス（後の日本人会婦人部シュパッツェンコーア）の指揮を務めていたことも



出席した新村・日本人会会長（中央）ら

あって、皆様の前で日本歌曲“さくらさくら”を歌わせていただいた。そして私達の喜びを精一杯表現するかのように、ブラスバンドの奏でるマーチが響く中、セレモニーは終わった。さてこの日植樹された百本の苗木は、一本500シリング（約36.5ユーロ）で日本人とこの地方の人、誰もが所有者になる事が出来た。それぞれの木に

所有者のネームプレートが付けられて育てられるのだ。

気候の問題もあり、苗木はオーストリア産三年木の桜ということで、数年後には桜んぼが実る楽しみもある。主人と私は結婚20周年記念にと、二本の持ち主となった。この日植樹された桜のほとんどが主人をもつ事ができ、一行はセレモニー終了後、自分たちの桜と対面するために並木道へと向かった。私達のネームプレートが付けられた二本の桜を見つけた時、不思議ななつかしさが込み上げてきて、この桜並木が元気に育つようと祈ったのを覚えている。見晴らしの良いこの並木道は“日本通り”と名付けられた。



セレモニーを祝って踊るドンネルスキルヒェンの若者たち

その後数年間私たちは桜の季節になると、私達の桜に会いに、“日本通り”に出かけたものだ。今、あの“日本通り”はどうなっているだろう？ 春には桜吹雪が舞っているかな？ 六月には真っ赤な「桜んぼ」が光っているのでは？ でもネームプレートはないだろうな？ 今度ウィーンに戻ったら、会いに行ってみよう！！

<永富 啓子>

佐賀県唐津市出身。声楽家 東京藝術大学、及びウィーン国立音楽大学卒業。

1971年から2000年までウィーン在住。ウィーン カンマーオーパー劇場（夏のシェーンブルーン宮殿公演）を皮切りに、オーストリア、日本で演奏活動。尚、永年にわたってウィーン日本人会婦人部女声コーラス“シュパッツェンコア”の指揮を務める。帰国後も引き続き演奏活動をするほか、後進の指導育成に努める。

日本演奏連盟会員、二期会会員、青の会会員。

全日本学生音楽コンクール審査員、全日本剣道連盟・剣道三段。



永富 啓子さん